

民俗文化財（有形民俗文化財）

ごいどういもじかんけいしりょう
五位堂鋳物師関係資料すぎたけちゅうぞうようぐ
杉田家鋳造用具・製品

せいひん

112点

内訳 鋳造用具 53点（ふるい5点ほか48点）

鋳造製品 59点（又鋤3点ほか56点）

（データ）

指定年月日（号数）：平成19年3月23日（市指定第29号）

時代：明治～昭和時代（推定）

所在地：香芝市藤山一丁目 香芝市二上山博物館

備考：展示は不定期

概要

本資料は、大和五位堂鋳物師三家（小原・杉田・津田）のうち、杉田家が経営していた杉田鋳造所の鋳造用具・製品の一部である。昭和56年1月、杉田家母屋の火災により、鋳造所も類焼を被り、のち昭和59年に廃業された。本資料は、その際、枚方市教育委員会が研究資料として保管されたもので、その後、杉田家に返却され、平成18年4月、香芝市に一括寄贈を受けた。なお、杉田家鋳造資料は、日本産業技術学会に寄贈された別の資料群がある。

五位堂鋳物師は、鍋釜や農具を生産するかたわら、各地に出職して梵鐘を鋳造していた。県内に88口以上残されていたが、戦時中の供出や破損による廃棄等で半分以下になっている。主な製品はやはり日用品の鍋釜や農具類である。とくに五位堂鍋、五位堂ビッチュウ（備中）は五位堂ブランドとして定着していたようである。近代以降は三本鋤・平鋤の製造が多く、昭和25（1950）年頃までがピークで、年間3,000個以上生産していた。

鋳物生産は、大正～昭和時代初期にかけて量産に適した製法等が導入されて、近代的鋳物工場への脱却が図られ、戦後は機械鋳物（工業部品）に重点が置かれる。本資料は、古来の伝統的工法である真土型法（惣型法）で鋳造されている。かつてこの地域で栄えた鋳物産業史を研究するうえで、貴重な資料である。

